

試聴会・訪問記掲載

ヨドバシカメラ Wharfedale スピーカー試聴会 (2018.7.14)

1. はじめに

ヨドバシカメラ梅田店のテクニクスの特設コーナーで開催された Wharfedale スピーカー試聴会に行ってきました。Wharfedale には往年の名機 Airedale があり、懐かしくなって聴いてみたくなりました。

2. 使用機器

ロッキーインターナショナルが取り扱う、Wharfedale ブランドのスピーカーシステムの、Wharfedale の Diamond 11 シリーズからブックシェルフ型「Diamond 11.1」とトールボーイ型「Diamond 11.4」、Diamond 200 シリーズのブックシェルフ型「Diamond 220」とトールボーイ型「Diamond 240」が試聴対象です。なお、デジタルプレーヤーには Musical Fidelity 「M6scd」が、アンプには「M6si」が使用されました。



当日のセッティング



「Diamond 220」



「Diamond 11.1」



「Diamond 240」



「Diamond 11.4」



プレイヤーとアンプ



女性担当者のプレゼンテーション



往年の銘機 Airedale

3. 試聴の経過

最初に、Wharfedale の成り立ちと二つのシリーズについての説明があつてから試聴に入りました。上記取り扱い製品の紹介は同社のサイトに掲載されています。

<http://www.rocky-international.co.jp/>

まず、最初に Diamond 240 を使い、ついで Diamond 11.4 により、シェラザードとバロックのオーボエ協奏曲がかけられましたが、前者は解像度が良く、切れ味の良さが目立つのに対し、後者はソフトでしなやかな音がしました。しかし、両者とも低域がぼやけ気味で、低音楽器の動きが掴みにくいところがありました。

次に Diamond 11.4 で男性ボーカルがかかった後、同じ曲でブックシュルフの Diamond 220、Diamond 11.1 の順に再生されました。

Diamond 11.4 ではスケール感があるのですが、低域のぼやけがバランスを欠き、Diamond 220、Diamond 11.1の方がバランスよく鳴っており、Diamond 220 と Diamond 11.1 の違いは、前者の音像がきりっと立つのに対し、後者はソフトに語りかけてくるような音になっています。好みとしては、Diamond 11.1 の小型ながらバランスの良い表現力に軍配を上げたいと思います。

トールボーイの低域の問題は、試聴室のカーペットに直置きされていることに由来し、しっかりしたボードなどを使えば、印象は変わってくると思います。ブックシュルフの方は、しっかりしたスピーカー台を使用していましたので、問題はありません。

なお、このヨドバシカメラ梅田の試聴場所はテクニクスの特設コーナーで、仕切りは粗末なものであり、ドアの外の製品案内のアナウンスや隣室の音、由来は分かりませんが、展示品を外そうとしたときの警告音らしい音が盛大に聴こえてきて、解説の声よりドアの外の拡声器の声が大きいくらいで、とてもじっくり試聴できる環境ではありませんでした。

4. まとめ

印象としては、歴史のあるメーカーらしく真面目に設計されたという音が好ましく感じられましたが、試聴環境の悪さとセッティングの問題で製品の真価を十分に把握できませんでした。

以上